

2016年12月期決算 参考資料

I サマリー情報	P.1
① 経営成績	P.1
② 財政状態	P.1
II 2016年12月期 実績	P.2
① 損益計算書	P.2
② 製商品別売上高	P.4
③ 貸借対照表	P.5
④ キャッシュ・フロー計算書	P.6
⑤ 設備投資の状況	P.7
⑥ 非資金項目	P.7
⑦ 研究開発の状況	P.7
III 2017年12月期 業績予想	P.8
① 損益計算書	P.8
② 製商品別売上高	P.10
③ 設備投資の状況	P.11
④ 非資金項目	P.11
⑤ 配当	P.11
IV 「中期経営計画2018」経営目標	P.11
【将来に関する記述等についてのご注意】	P.12

※ 本資料は累計期間に係る情報を掲載しており、百万円未満を切捨てして表示しております。

2017年2月2日



鳥居薬品株式会社

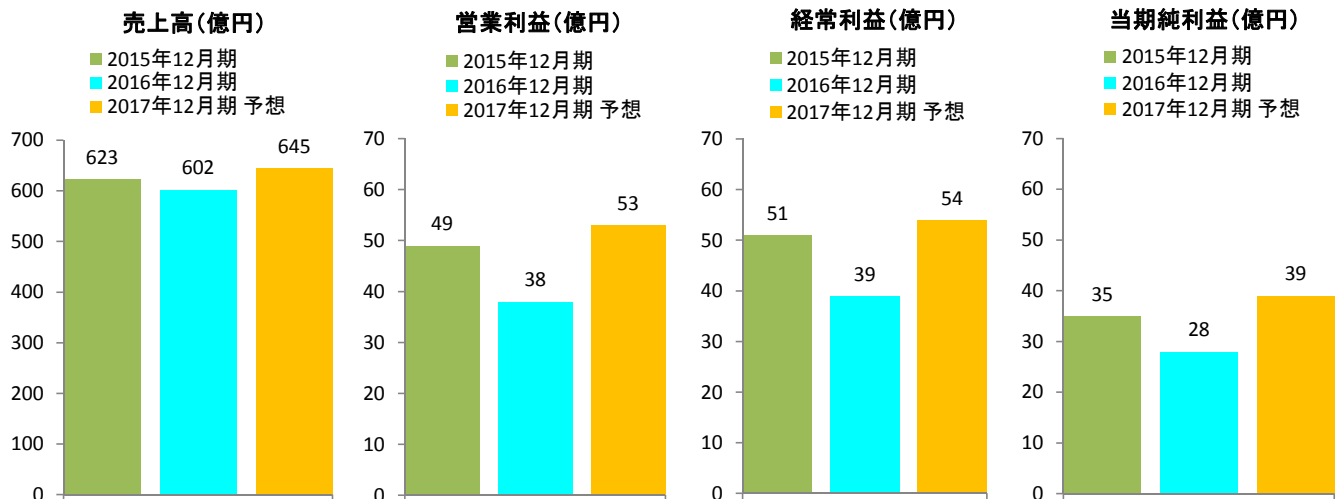
I サマリー情報

① 経営成績

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減	増減率 (%)	2017年12月期 予想	増減	増減率 (%)
	A	B	B-A	(B-A)/A	C	C-B	(C-B)/B
売上高	62,378	60,206	△2,171	△3.5	64,500	4,293	7.1
営業利益	4,919	3,819	△1,099	△22.4	5,300	1,480	38.8
経常利益	5,135	3,999	△1,135	△22.1	5,400	1,400	35.0
当期純利益	3,527	2,839	△687	△19.5	3,900	1,060	37.3

(参考)

研究開発費	5,237	4,654	△583	△11.1	4,820	165	3.6
1株当たり当期純利益(EPS) (円)	124.65	100.41	△24.24		139.04	38.63	
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	4.3	3.4	△0.9		-		
総資産経常利益率 (%)	5.4	4.1	△1.3		-		
売上高営業利益率 (%)	7.9	6.3	△1.6		-		
総資産当期純利益率(ROA) (%)	3.7	2.9	△0.8		-		



② 財政状態

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減	増減率 (%)
	A	B	B-A	(B-A)/A
総資産	98,868	98,525	△343	△0.3
純資産	82,826	83,556	729	0.9
自己資本比率 (%)	83.8	84.8	1.0	
1株当たり純資産(BPS) (円)	2,926.81	2,978.80	51.99	

Ⅱ 2016年12月期 実績

① 損益計算書

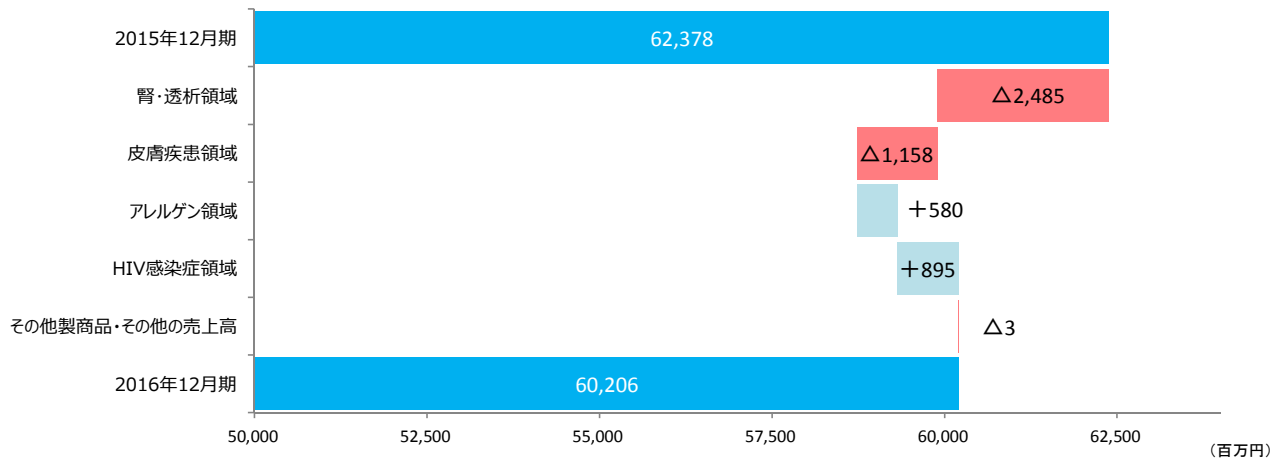
(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
売上高	62,378	60,206	△2,171	△3.5
製商品売上高	61,861	59,620	△2,240	△3.6
腎・透析領域	27,627	25,141	△2,485	△9.0
皮膚疾患領域	10,970	9,811	△1,158	△10.6
アレルギー領域	905	1,485	580	64.1
HIV感染症領域	16,330	17,225	895	5.5
その他	6,028	5,956	△72	△1.2
その他の売上高	517	586	68	13.3
売上原価	30,814	30,287	△526	△1.7
製商品売上原価	30,759	30,223	△535	△1.7
その他の原価	54	63	9	17.2
売上総利益	31,564	29,919	△1,645	△5.2
販売費及び一般管理費	26,645	26,099	△545	△2.0
販管費(研究開発費除く)	21,408	21,445	37	0.2
研究開発費	5,237	4,654	△583	△11.1
営業利益	4,919	3,819	△1,099	△22.4
営業外収益	218	184	△33	-
営業外費用	2	4	2	-
経常利益	5,135	3,999	△1,135	△22.1
特別利益	320	86	△233	-
特別損失	196	29	△167	-
税引前当期純利益	5,258	4,056	△1,202	△22.9
法人税等	1,730	1,216	△514	-
当期純利益	3,527	2,839	△687	△19.5

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2015年12月期	2016年12月期	増減 B-A
	A	B	
売上原価	49.4	50.3	0.9
販売費及び一般管理費	42.7	43.4	0.7
研究開発費	8.4	7.7	△0.7
営業利益	7.9	6.3	△1.6
経常利益	8.2	6.6	△1.6
当期純利益	5.7	4.7	△1.0

【対前期増減要因】

売上高（60,206百万円 対前期△2,171百万円）

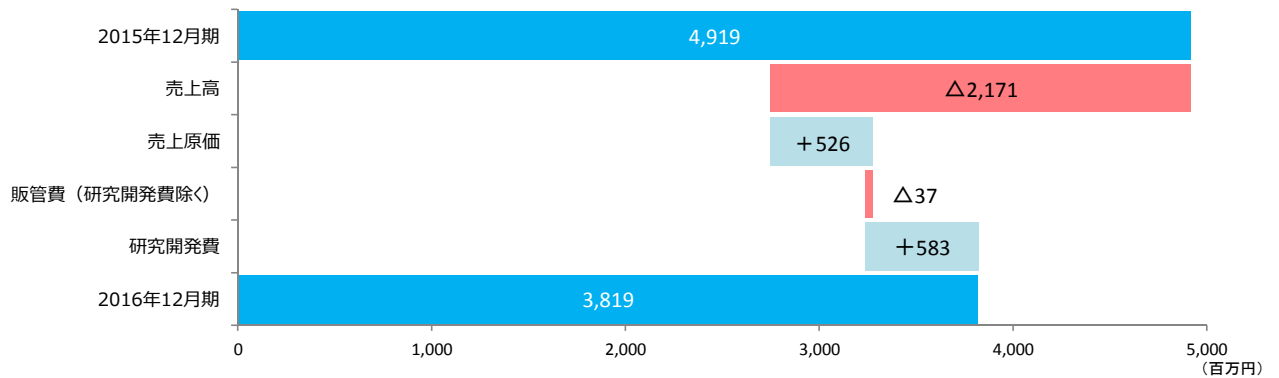


主な増減要因

腎・透析領域	: レミッチカプセル	△1,991百万円	、	注射用フサン	△599百万円
	: ユリノーム錠	△384百万円	、	リオナ錠	+599百万円
皮膚疾患領域	: アンテベート	△603百万円			
アレルギー領域	: シダトレン スギ花粉舌下液	+425百万円			
HIV感染症領域	: ゲンボイヤ配合錠	+1,865百万円	、	スタビルド配合錠	△762百万円

※詳細はP.4「② 製商品別売上高」を参照

営業利益（3,819百万円 対前期△1,099百万円）



主な増減要因

売上原価	: 売上高の減少、販売品目の構成変化
研究開発費	: 臨床試験費用（TO-206）の減少、Menlo Therapeutics社との契約に伴う一時金支払による増加

経常利益（3,999百万円 対前期△1,135百万円）

特記事項：特になし

当期純利益（2,839百万円 対前期△687百万円）

特記事項：特になし

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
製商品売上高	61,861	59,620	△2,240	△3.6
レミッチカプセル	15,636	13,645	△1,991	△12.7
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]				
ツルバダ配合錠	12,938	12,754	△183	△1.4
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
アンテベート ※1	6,881	6,277	△603	△8.8
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
リオナ錠	5,034	5,634	599	11.9
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]				
注射用フサン ※1	3,062	2,462	△599	△19.6
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]				
ビオスリー	2,272	2,455	182	8.0
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]				
スタビルド配合錠	3,133	2,371	△762	△24.3
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ケイキサレート ※1	2,288	2,178	△109	△4.8
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]				
ゲンボイヤ配合錠 ※2	—	1,865	1,865	—
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ロコイド ※1	1,417	1,352	△64	△4.5
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ゼフナート	1,407	1,275	△131	△9.3
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]				
ユリノーム錠 ※1	1,604	1,219	△384	△24.0
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]				
マグセント	1,143	1,165	21	1.9
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	511	937	425	83.2
スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬 [アレルゲン領域]				
その他製商品	4,528	4,023	△504	△11.1

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しております。

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
自社品売上高	17,567	16,316	△1,250	△7.1
自社品比率 (%)	28.4	27.4	△1.0	—

③ 貸借対照表

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A	構成比 (%) (当期)
	A	B			
流動資産	77,155	80,123	2,968	3.8	81.3
現金及び預金	14,361	22,393	8,031		
キャッシュ・マネジメント・システム預託金	4,348	7,091	2,743		
受取手形及び売掛金	27,904	26,560	△1,344		
有価証券	18,708	11,102	△7,606		
たな卸資産	9,836	10,606	770		
その他	1,994	2,368	374		
固定資産	21,713	18,401	△3,311	△15.3	18.7
有形固定資産	6,182	5,752	△429		
無形固定資産	955	896	△58		
投資その他の資産	14,575	11,752	△2,823		
投資有価証券	6,800	3,877	△2,923		
長期前払費用	6,530	6,486	△44		
その他	1,244	1,389	144		
資産合計	98,868	98,525	△343	△0.3	100.0
流動負債	14,472	13,310	△1,162	△8.0	13.5
買掛金	6,853	6,698	△155		
未払金	3,287	3,178	△109		
未払法人税等	1,915	767	△1,148		
賞与引当金	660	676	15		
その他	1,755	1,990	235		
固定負債	1,569	1,658	88	5.7	1.7
負債合計	16,042	14,969	△1,073	△6.7	15.2
株主資本	82,127	82,993	865	1.1	84.2
評価・換算差額等	698	558	△140	△20.1	0.6
新株予約権	-	4	4	-	0.0
純資産合計	82,826	83,556	729	0.9	84.8
負債純資産合計	98,868	98,525	△343	△0.3	100.0

主な増減要因

(流動資産)

受取手形及び売掛金

: 売上高の減少による減少

有価証券

: 金銭信託の償還による減少、債券の売却による減少

(固定資産)

投資有価証券

: 有価証券への振替による減少、債券の売却による減少

(純資産)

株主資本

: 当期純利益による増加、配当金の支払による減少、自己株式の取得による減少

④ キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額
	A	B	B-A
税引前当期純利益	5,258	4,056	△1,202
減価償却費	1,457	1,339	△118
減損損失	142	-	△142
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,003	1,344	3,347
たな卸資産の増減額 (△は増加)	299	△770	△1,069
仕入債務の増減額 (△は減少)	758	△155	△913
未払金の増減額 (△は減少)	1,453	△220	△1,674
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△1,300	44	1,344
法人税等の支払額	△413	△2,500	△2,086
その他	△714	264	978
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,940	3,402	△1,537
有形固定資産の取得による支出	△1,095	△500	594
有形固定資産の売却による収入	342	101	△241
無形固定資産の取得による支出	△389	△260	128
その他	2,100	2,021	△78
投資活動によるキャッシュ・フロー	957	1,361	404
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,582	△2,289	△707
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,316	2,475	△1,840
現金及び現金同等物の期首残高	31,894	36,210	4,316
現金及び現金同等物の期末残高	36,210	38,685	2,475

(注) 現金及び現金同等物は、現金及び預金（預入期間が3ヶ月を超える定期預金を除く）、キャッシュ・マネージメント・システム預託金、有価証券（取得日から償還日迄の期間が3ヶ月を超えるものを除く）からなっております。

主な増減要因

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権の増減額 : 当期 売上高の減少による減少

長期前払費用の増減額 : 前期 開発マイルストーンの計上による増加、販売権の償却による減少

(財務活動によるキャッシュ・フロー) : 当期 自己株式の取得による減少

⑤ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
設備投資額	2,207	891	△1,316	△59.6
有形固定資産	1,802	644	△1,157	△64.2
無形固定資産	405	246	△158	△39.1

当期の設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

⑥ 非資金項目

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	A	B		
減価償却費	1,457	1,339	△118	△8.1
長期前払費用償却費	824	1,018	194	23.6

⑦ 研究開発の状況

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階 (国内)					備考
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
腎・透析領域								
JTT-751 「リオナ錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤		Phase II				<ul style="list-style-type: none"> ・ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)との共同開発 ・日本たばこ産業(株)が2014年1月17日に製造販売承認取得 ・高リン血症治療剤として販売中
アレルギー領域								
TO-203 「ミティキュア ダニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (アレルギー免疫療法薬)	舌下錠		Phase II / III 終了※				<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発 ※今後の開発方針について検討中
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (アレルギー免疫療法薬)	舌下錠			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発
TO-206	スギ花粉症 (アレルギー免疫療法薬)	舌下錠				申請		<ul style="list-style-type: none"> ・自社開発 ・2015年12月25日に製造販売承認申請

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- ・2016年8月 Menlo Therapeutics社が開発を進めているニューロキニン1 (NK-1) 受容体アンタゴニスト (国際一般名: serlopitant) の日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約 (日本たばこ産業(株)との共同開発)
- ・2016年10月 日本たばこ産業(株)が日本での臨床開発を実施しているJAK阻害剤「JTE-052」皮膚外用剤の日本における共同開発及び販売に関する契約

Ⅲ 2017年12月期 業績予想

① 損益計算書

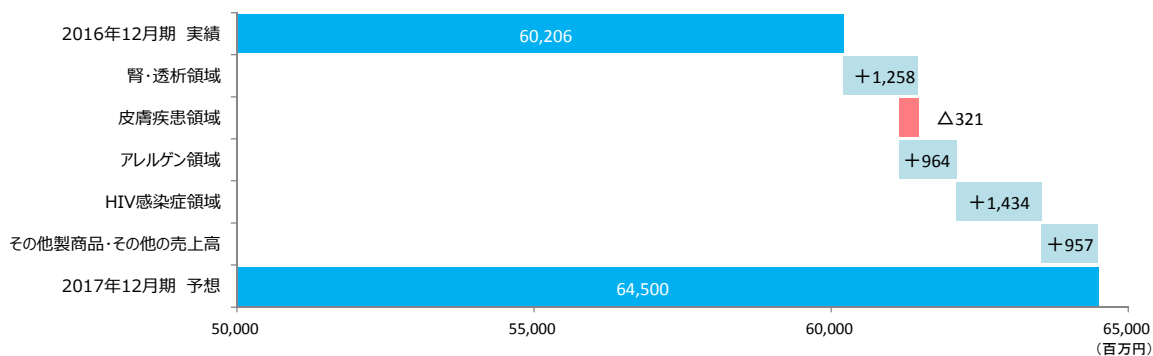
(単位:百万円)	2016年12月期	2017年12月期	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
	実績 A	予想 B		
売上高	60,206	64,500	4,293	7.1
製商品売上高	59,620	62,900	3,279	5.5
腎・透析領域	25,141	26,400	1,258	5.0
皮膚疾患領域	9,811	9,490	△321	△3.3
アレルギー領域	1,485	2,450	964	64.9
HIV感染症領域	17,225	18,660	1,434	8.3
その他	5,956	5,900	△56	△0.9
その他の売上高	586	1,600	1,013	173.0
売上原価	30,287	31,700	1,412	4.7
売上総利益	29,919	32,800	2,880	9.6
販売費及び一般管理費	26,099	27,500	1,400	5.4
販管費(研究開発費除く)	21,445	22,680	1,234	5.8
研究開発費	4,654	4,820	165	3.6
営業利益	3,819	5,300	1,480	38.8
経常利益	3,999	5,400	1,400	35.0
当期純利益	2,839	3,900	1,060	37.3

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2016年12月期	2017年12月期	増減 B-A
	実績 A	予想 B	
売上原価	50.3	49.1	△1.2
販売費及び一般管理費	43.4	42.6	△0.8
研究開発費	7.7	7.5	△0.2
営業利益	6.3	8.2	1.9
経常利益	6.6	8.4	1.8
当期純利益	4.7	6.0	1.3

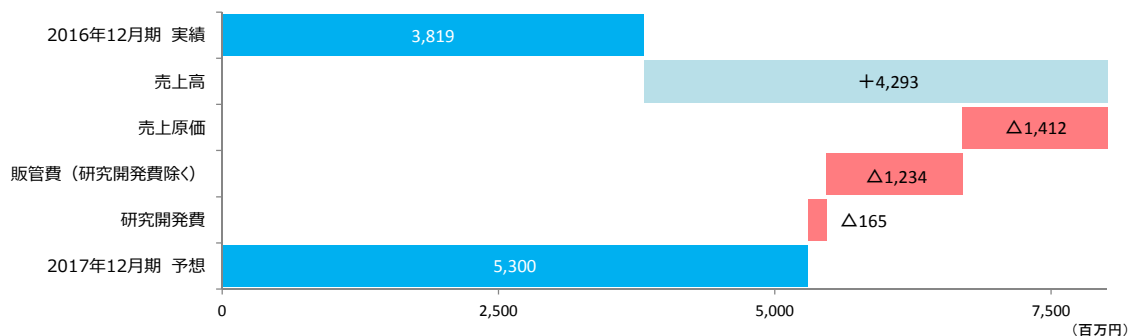
【対前期実績増減要因】

売上高 (64,500百万円 対前期実績+4,293百万円)



主な増減要因				
腎・透析領域	: リオナ錠	+1,915百万円	注射用アサン	△362百万円
皮膚疾患領域	: アンテベート	△247百万円		
アレルギー領域	: シダトレン スギ花粉舌下液	+322百万円		
HIV感染症領域	: デンコビ配合錠	+6,750百万円	ゲンボイヤ配合錠	+3,724百万円
	: ツルバダ配合錠	△7,014百万円	スタリビルド配合錠	△1,971百万円
その他製商品・その他の売上高	: コ・プロモーション収入	+1,009百万円		
※詳細はP.10「② 製商品別売上高」を参照				

営業利益 (5,300百万円 対前期実績+1,480万円)



主な増減要因	
売上原価	: 売上高の増加
販管費 (研究開発費除く)	: 販売促進費の増加

経常利益 (5,400百万円 対前期実績+1,400万円)

特記事項: 特になし

当期純利益 (3,900百万円 対前期実績+1,060百万円)

特記事項: 特になし

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2016年12月期 実績 A	2017年12月期 予想 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
製商品売上高	59,620	62,900	3,279	5.5
レミッチカプセル	13,645	13,600	△45	△0.3
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]				
リオナ錠	5,634	7,550	1,915	34.0
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]				
デシコピ配合錠 ※3	—	6,750	6,750	—
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
アンテベート ※1	6,277	6,030	△247	△3.9
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ツルバダ配合錠	12,754	5,740	△7,014	△55.0
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ゲンボイヤ配合錠 ※2	1,865	5,590	3,724	199.6
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ビオスリー	2,455	2,550	94	3.9
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]				
ケイキサレート ※1	2,178	2,150	△28	△1.3
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]				
注射用フサン ※1	2,462	2,100	△362	△14.7
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]				
ロコイド ※1	1,352	1,360	7	0.5
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ゼフナート	1,275	1,360	84	6.6
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	937	1,260	322	34.4
スギ花粉症のアレルゲン免疫療法薬 [アレルゲン領域]				
マグセント	1,165	1,200	34	2.9
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]				
ユリノーム錠 ※1	1,219	1,000	△219	△18.0
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]				
スタビルド配合錠	2,371	400	△1,971	△83.1
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
その他製商品	4,023	4,260	236	5.9

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しております。

※3 「デシコピ配合錠」は、2017年1月に販売を開始しております。

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2016年12月期 実績 A	2017年12月期 予想 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
自社品売上高	16,316	16,440	123	0.8
自社品比率 (%)	27.4	26.1	△1.3	—

③ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2016年12月期	2017年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	実績 A	予想 B		
設備投資額	891	1,192	300	33.7
有形固定資産	644	964	319	49.5
無形固定資産	246	228	△18	△7.7

設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力の維持向上を目的とする製造設備への投資

無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

④ 非資金項目

(単位:百万円)	2016年12月期	2017年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	実績 A	予想 B		
減価償却費	1,339	1,240	△99	△7.4
長期前払費用償却費	1,018	1,056	37	3.6

⑤ 配当

		2016年12月期	2017年12月期	増減	増減率 (%) (B-A)/A
		実績 A	予想 B		
1株当たり配当金	(円)	48	48	0	0.0
配当性向	(%)	47.8	34.5	△13.3	-

IV 「中期経営計画2018」経営目標

	2016年12月期	2017年12月期	2018年度
	実績	予想	目標※2
売上高	602億円	645億円	620億円
営業利益（研究開発費控除前）※1	84億円	101億円	80億円

※1 研究開発費は、中長期的な成長に向けた積極的な事業投資により大きく変動する等、現時点において見通すことが困難であるため、利益面における目標は、研究開発費を控除する前の営業利益を計数目標としております。

※2 目標値については、薬価改定及び後発品使用促進策の影響等について一定の前提条件により策定しております。今後、前提条件が大きく変化した場合には適時に目標値の見直しを行います。

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見通しを見直すとは限りません。なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げるすることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

- ◇ 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 研究開発の遅延又は中止
- ◇ 製商品の供給停止、回収
- ◇ 薬価の決定、改定
- ◇ 訴訟の提起